

「種山ヶ原は今②」 賢治の森

12月から「星座の森」は水不足のため閉館となり、入山禁止になりました。そして10日頃から降り始めた雪で北上山地は白の世界に。満月の時は、丁度種山ヶ原から月が上り、やがて火星が赤っぽい姿を見せてくれました。木星はすでに高く煌き、とてもきれいでした。ふたご座流星群も14日の8時頃には、雪もやみ、奇跡の星空が現れ、かすかに尾をひく流星を見ることができました。動物たちはどうしているのでしょうか。クマは穴で冬眠していると思いますが、カモシカ、鹿、猪の今年生まれた子ども達はこの冬をどう過ごすのでしょうか。

「賢治の森」と「野の詩人・真壁仁氏」



昭和46年9月に「野の詩人・真壁仁氏」(山形出身)が種山ヶ原を訪れた時の「賢治の森」(松淵章氏撮影)は周囲には何もない草原でした。木細工の人達は「物見山までずっと野芝で、はだしでどこまでも歩けたもんだ。」とよく言っていた。

同行した佐伯公郎氏から「毎年6月の第二日曜日に、種山ヶ原の山開きが行われ、詩碑のあたりで鹿踊りも見られるので、その頃また来ないかという誘いに大いに心を動かされ」種山ヶ原を去った。

「ひとかべ文学散歩」(江刺教育委員会発行 米里公民館編)より

※松淵章氏・佐伯公郎氏が中心に編集

【40年後】 松の木でおおわれ、広い高原が見えなくなりました。



【2011年】

2011年12月17日松の木で覆われ、景観の悪い賢治の森を整備しようと、会員15名程で松の木等の伐採をし、物見山はもちろん、星座の森や牧場が見えるようになりました。みんな愚痴も言わず頑張りました。それにしても寒かった。2018年からは、詩碑から胆沢平野が見えないとの要望があり、整備に取り組んでいるところです。立石の松も根がはり岩が裂けるので、伐採しました。



宮沢賢治詩碑「牧歌」 昭和37年建立



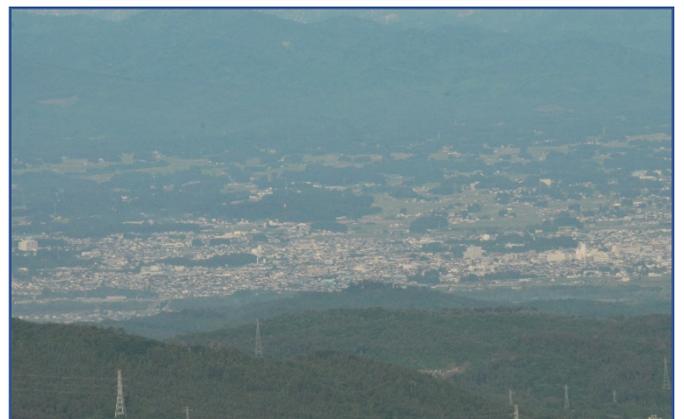
詩碑の下の胆沢平野には雲海が広がっている

「牧歌」

種山ヶ原の 雲の中で刈った草は
どごさが置いだ 忘れた 雨あふる
種山ヶ原の せ高の芒あざみ
刈ってで置き忘れ 雨あふる 雨あふる
種山ヶ原の 霧の中で刈った草さ
わすれ草も入ったが 忘れた 雨あふる
種山ヶ原の 置きわすれの草のたばは
どごがの長嶺で ぬれでる ぬれでる
種山ヶ原の 長嶺さ置いだ草は
雲に持ってがれた 無くなる 無くなる
種山ヶ原の 長嶺の上の雲を
ぼっかげで見れば 無くなる 無くなる



雲海も見事です 向こうは奥羽山脈



奥州市・金ヶ崎・北上の町並みも見える



奥が立石



カモシカが東屋で休んでいることが多い

今では、春は野菊やレンゲツツジ、夏から秋にかけてヤマユリやあざみでいっぱいです。



春りんどう



ヤマユリ

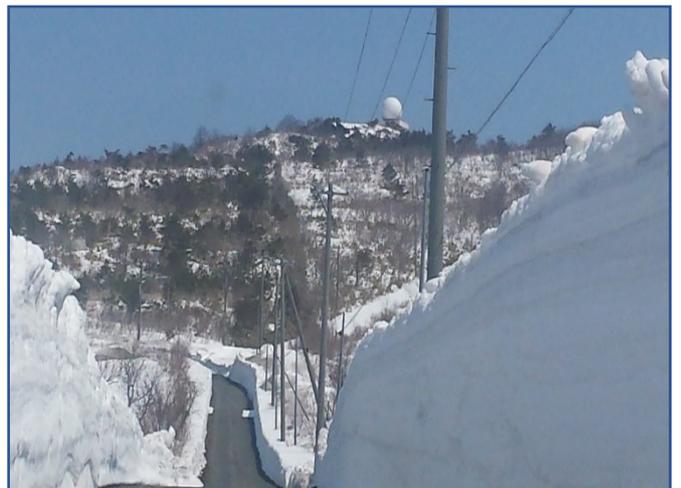
アヤメ

マユミ



初冬の星座の森の『風の又三郎』

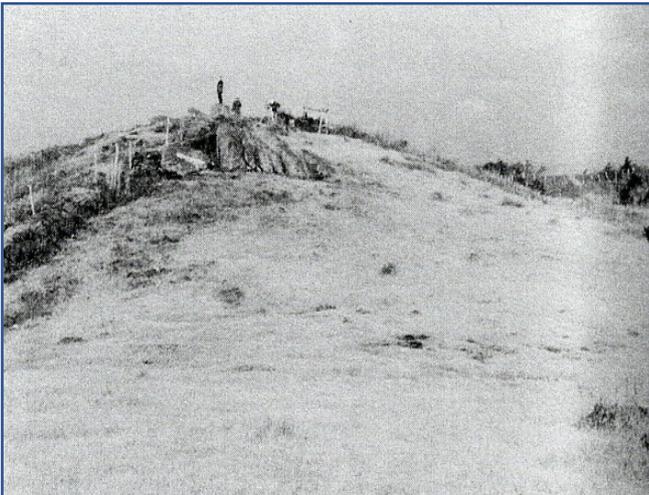
早春の種山ヶ原



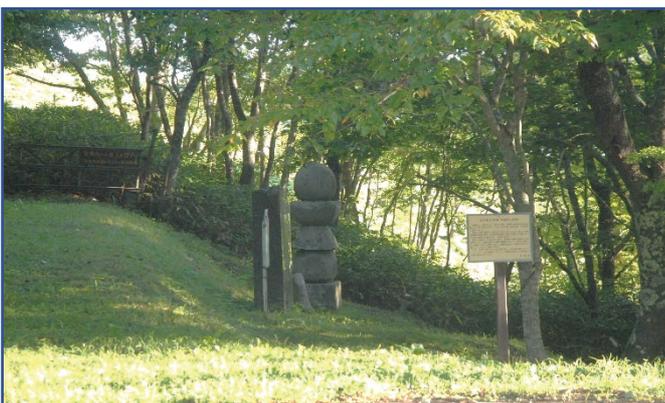
物見山、五輪峠に南部・伊達藩藩境塚が

戦国時代真っ盛りの天正年間に南部氏は五郡を併せ 10 万石の大名となりました。一方伊達政宗は北進し、気仙・磐井・胆沢・江刺 4 郡を領有しました。両藩が接することになり、御境争論が起きました。藩境を越えての盗伐や畑作等の藩境争いが始まり、幕府が仲裁に入り寛永 19 年(1642)に金ヶ崎の駒ヶ岳から釜石の唐丹までおおよそ 130 km に藩境塚が築られました。しかし、それでも小論争が起り、落ち着いたのは元禄 11 年(1698)でした。物見山にもその塚があったのです。普通はこんもりとした塚があるのですが、その跡はなく、今の三角点だといひます。現在も奥州市・住田町・遠野市の分岐点と思ひます。

昭和 45 年 11 月 19 日 塚確認 現三角点

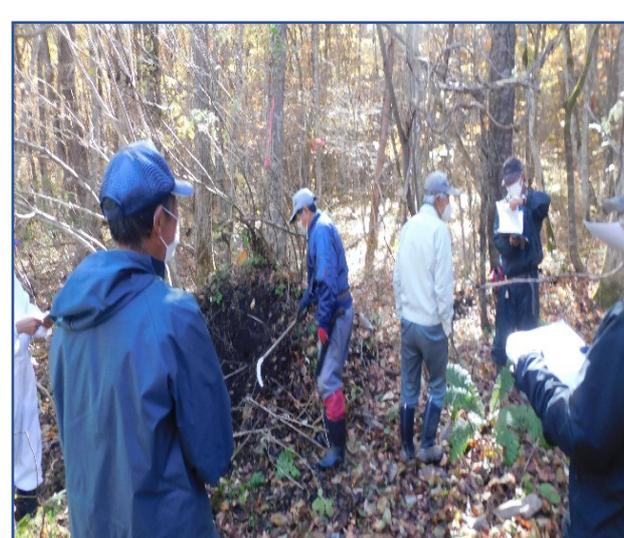


昭和 44 年 11 月 24 日五輪峠の塚を確認 県道造成のため半壊しているものの、道路を挟んで対になって現存。人が立っている所が藩境塚。※方向が逆でした。



第2回藩境塚巡り

11/6 五輪連山の紅葉を眺め、高橋光朗さんの説明を聞き、参加者12名 山林所有者の千葉誠美さんと実際に昔の街道を高校に通った千葉光紀さんの話しを聞きながら藩境塚巡りを実施した。350年も昔に作られた藩境塚が残っていることに驚き、途中470年前の追分石の説明も加わり、とても良い学びの場でもあり、天気も良く、良い散策になりました。



R5 **星の楽校通信1** 新年おめでとうございます。時には空を見上げて。色々な発見がある。14日の夜奇跡的に星空に。ふたご座流星群を見ることができましたね。願ってれば必ず叶う🌟

1日 朝 月と火星とアンタレスが並ぶ。 **さそり座を見つけよう**
 火星もアンタレスも赤っぽい星※アンタレスはさそり座α星
 6時8分頃国際宇宙ステーションも北の方を飛んでいます。



4・5日 夕方6時前 火星と月大接近
しぶんぎ流星群 (3大流星群の一つ) 条件は良くないが、夜半から朝に
 たくさん飛ぶことを期待したい。

8日 年に一番小さな満月に
 右と左の大きさの違いを比べてみよう。

22日 旧正月
 60年程前までは旧正月が本番だったね

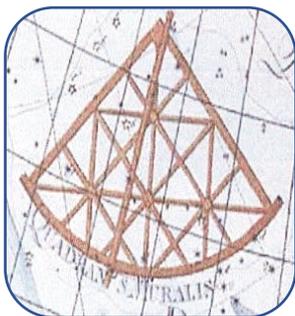
23日 夕方 月と土星(20:33)
 金星(21:09) と並ぶ

26日 夕方、三日月と木星接近
 29日 上弦の月上弦・下弦どう違う



【しぶんぎ座流星群】

しぶんぎ(四分儀)とは、古くから天体観測に用いられた天文観測器です。四分儀座は現在のりゅう座・ヘラクレス座・牛飼座の境界付近にあったが、今は星座としては使われていない。象限儀とも言い、日本でも江戸時代伊能忠敬が日本地図を作る時に使用していたと言われていたらしい。



<しぶんぎ座>

宮沢賢治作「銀河鉄道の夜」②

「さそりの火のお話」

ジョバンニとカンパネラが「わしの停車場」に来ると、青年と幼い姉弟が乗り込んで来ました。彼らは沈没したタイタニック号で亡くなった人たちで、赤い火を見ながら、お父さんから聞いた「さそりの赤い火」の話を始めたのです。

さそりはイタチに追われつかまりそうになると井戸に飛び込み、窮地に立って初めて今までの生き方を反省し、「どうか次にはみんなの真の幸せのためにお使いください。」

と言ったという。そうすると、いつの間にか真っ赤な美しい火になっていた。

賢治は「人間が自分のことしか考えなくなったら、世界の平和や幸福は失われる。」と、言いたかったのかもしれないね。

尚、この作品は大正13年宮沢賢治が教え子と五輪峠を越え、人首町を訪れた年に書いた作品です。しかし、何度も書き直し、出版されたのは賢治が亡くなってからだそうです。

「鳥の北斗七星」(賢治が生前に出版した唯一の作品「注文の多い料理店」

の中にある童話の一つ。) **お話の一部**鳥の大尉は敵の山に住む鳥との戦いがあった時、山鳥軍と戦う動機を見いだせない大尉は、マジエラ様(北斗七星のこと)を仰ぎ祈る。「どうか憎むことができない敵を殺さなくてもいいような世界に早くなりますように」と。ウクライナ・ロシアの兵士も同じ思いでしょうね。

近所で希望の方がいれば右記に 問合せ先賢治街道を歩く会 山崎 勝 TEL 090-5597-2340

「北斗七星・北極星」について

北天にあって動かない北極星、その周りを回る北斗七星は宇宙を支配する神とその神を乗せる乗り物として古来より信仰の対象になってきました。その信仰はインドで始まり、中国に伝えられ、やがて日本の仏教や神道にも取り入れられ、星を祀り、護国鎮守、除災招福の祈願が行われてきました。

日本では、古来北極星や北斗七星を『妙見』として崇めてきました。

『妙見』とは、すぐれた視力の意。私たちの行いの善悪、真理をよく見通すチカラを表しています。北極星または北斗七星を神格化した『妙見菩薩』が仏教の天部の一つです。岩手県にも北斗信仰は根付いており、特に奥州市の黒石寺の妙見堂は有名である。宮古の白浜には、星の宮大明神があるらしい

宮沢賢治は本当にいろんなことをよく知っている。私は初めて知りました。

星宮大明神については、3月に行って、調査し発信します。目標ができると、年寄りにも元気が出ます。

12月27日夕桜木橋からの種山ヶ原

左の山が大森山 かすかにアメダスが見える右の山が物見山

「青い山脈」という歌もある、なだらかに連なる北上山地

